

日本災害看護学会先遣隊 台風第19号活動報告（長野県）

2019年10月14日(月・祝)

活動メンバー:小原真理子・長谷川美智子・高田昭彦・齋藤 正子

1. 活動の概要

活動日時:令和元年 10月14日(月・祝)6:00~19:30

活動場所:長野県長野市

支援目的:先遣隊活動

調査地区の特性:長野県北信地方。長野市の人口総数 376,104人;世帯数 161,433世帯(2019年10月1日)

高齢化率 29.1%(2018年)、全般に長野市は盆地に位置し、盆地特有の気候であるため寒暖の差が激しく、夏は暑く、冬は寒い。雪が少なく、年間通して雨も極めて少ない。降水量は日本の中で最も少ない地域の一つである。長野県北部の中心都市、善光寺の門前町であり、1998年長野オリンピック、パラリンピックが開催された。長野県はりんごの産地であり、全国2位である。

活動日の状況:台風第19号の被災後、3日目。

台風第19号により千曲川が決壊し、長野県内1人死亡4人不明(2019年10月14日)。

避難者避難所数(自主避難を含む)は54箇所、避難者数は6000人強(日本経済新聞)

天気は、曇りのち雨、気温18度。雨により更なる河川の水位の上昇や土砂災害が懸念されている。長野新幹線は、東京駅~長野駅の折り返し運転。長野電鉄やバスが止まっている。高速道路は、上信越道の松井田妙義~小諸まで一般道であり松井田妙義~佐久で通行止めの区間がある。りんごが収穫期をむかえており、農産物の被害が甚大である。

2. 活動の実際

時間	活動の内容
9:03	長野県看護協会 災害理事へ電話にて情報収集を行う。 長野県より上田市へ災害支援ナースの依頼があり、明日から2人を派遣する予定である。役割は保健師と同行し、各避難所へのローラー作成の支援である。情報提供の共有をお願いしたいとの要望があった。
10:10	教育活動委員会委員より、電話連絡あり。 埼玉県の状況報告。勤務先の武蔵野総合病院は川越市にあり、冠水地域から車で15分くらいである。病院の被害はなし。埼玉県内の避難所は、20ヶ所。特に収容が多い東松山の避難所には500人の受け入れを行なっている。今晚が雨のため、避難者が増える可能性あり。 埼玉県看護協会から今のところ、災害支援ナースの要請はないが、避難所が長期化した場合には、派遣要請がかかる可能性あり。
12:30	日本災害看護学会先遣隊（長野チーム）活動ミーティング ● 清泉女学院には、先遣隊への協力体制がある。大学は、10/22まで1週間休校となった。大学の1階の教室を活動の拠点として借用が可能である。教員および学生の支援活動の申し出がある。通信システムとして、オクレンジーシステムを利用している。
13:00	清泉女学院大学(8人)との活動ミーティング ● 清泉女学院大学では、大学職員の自主活動グループ(看護師12人)を結成した。看護学生もボランティア活動を希望している。教職員および学生のボランティア保険は、加入済み。 → 看護職の支援体制がある。 ● 大学の1階は、有事(災害)用にも設立されている。設備は、非常用発電、水道、会議室はモニターの使用も可能である。備蓄、エアベッドなどがある。エレベーターは、担架を使用できる。4階のフリースペースを開放することが可能である。また、駐車場の使用可能。災害時には、拠点として使用でき

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災が大きい地域は、穂保エリア、相之島が一番被災している。支援が入っていない<u>飯山エリア</u>の情報が報道されていない。飯山赤十字病院で情報収集するとよい。市役所の保健師と連携を行っていく。<u>須坂エリア</u>はかなり困っている様子である。市長がフェイスブックにて SOS を出している。下水処理場が水没しているため、水道が使用できない。また、小布施の活動も支援が届いていない状況である。 長野こども病院の小児が在宅避難している。医療ケアの小児を対象としたディーサービスとして、大学の 1 階を開放してもらえないかとの要望があり、<u>医療的ケアを駅前保健室(健康カフェ)をオープンすることになった。対象者は限定しない。(10 時～15 時) マスコミなどに情報提供する。</u> → <u>ニーズに応じて繋げる</u> 先遣隊は、この後に情報収集を行い、優先度が高いエリアへ清泉女学院の支援活動の依頼を行う。
16:14	<p>須坂市役所到着。健康福祉課 K 氏、保健師 A 氏より、情報収集した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難者は、約 300 人。避難所は集約し、現在2カ所。北部体育館に 280 人。ふれあいプラザには 20 人。支援が必要な 8 人は、福祉避難所に収容した。精神疾患のかたは、グループホームに戻った。 各避難所には、交代で保健師2人の配置をしている。 薬を持ってきていない方へは、かかりつけ医または、休日診療を勧めている。 被災者は、家の片付けで忙しい。住民からは情報が欲しいとのニーズが高い。 今後は、片付けの消毒、衛生面が心配である。石灰をまきたい住民が多いが、逆性石鹼オスパンの対応を行う予定である。(オスパンでよいのか質問があった)チラシを作成し、避難所などで配布する。 カビの問題は、次の段階で考えている。 今日までは、休日であり、通常業務が始まると対応が大変となる。 明日からボランティアセンターが開設される。 <u>下水処理場が被災し、下水が使用できない状態である。</u> お風呂に入れないため、市の温泉施設 2 カ所を開放した。
17:35	<p>須坂市北部体育館へ到着する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本赤十字医療班より、情報提供を受ける。避難者は、130 人から 150 人。本日は、二人発熱、子どもは、救命センターを受診したが、インフルエンザではなかった。巡回は、本日から3日間行う予定であり、次の医療班の継続は、決定していない。 食事はボランティアによる炊き出しあり。(近所のレストランなど) 乳児がいる女性は、家族5人で避難している。(乳児1人、幼児2人を含む)授乳のため、テントを用意した。自宅は、床下浸水であり、漏電が心配である。今晚は雨のため避難所には泊まるが明日は帰宅する予定である。 高齢者の方から内服薬を持参せず避難してきた。今日、病院でもらってきたので安心した。床が固いことが眠りづらいとのことであった。
18:20	<p>ふれあいプラザへ到着</p> <ul style="list-style-type: none"> 入所者 19 人、支援が必要な人は1人。食事は地域住民のボランティアによる炊き出しあり。 この施設は、公民館と介護予防事業を行っている。住民への部屋の貸し出しは、今週はキャンセルした。 現在は、困っていることはないが、在宅に戻る際に支援が必要になる可能性がある。 要配慮者の対応についての懸念として避難所に移動できない寝たきり高齢者の事態が明らかになっていないこと。要配慮者の家族への支援までは支援が届いていない様子。支援要望があっても声

	<p>に出しなく様子。</p> <ul style="list-style-type: none">● 元気な須坂市長と遭遇、お互いの自己紹介と活動について情報提供し合う。● 子供たちの学校が休校している。保育園も休園している。今後、子供たちへの支援が必要となるか情報を集めていく必要がある。
--	---

3. 課題

清泉女学院大学との話し合いのもとに、須坂市の情報収集に入った。避難所は、2箇所あり、北部体育館とふれあいプラザがあったが、日赤の巡回や行政、地元のボランティアの支援があり、外部支援のニーズは高くない。今後は、避難所から在宅に戻るときに支援が必要になるのではないかと。

須坂市は下水処理場の被災により、トイレの問題が発生している。避難所生活の長期化を防ぐためにも、トイレ問題への早急の対応が必要である。また、行政に対し、家屋の消毒およびカビへの対処を情報提供することが緊急課題である。

明日は、被害が甚大な長野市、飯山市のニーズ調査へ入る。また、須坂市の福祉避難所についても調査を行う予定である。行政や被災者、支援者の様子は急性期独特のハイパーテンション風を呈しているが、外部支援者として、人々に寄り添い、気持ちを受け止めながら、冷静な対処も必要と考える。



須坂市北部体育館の様子